

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名		有田町立有田中学校																						
1 前年度 評価結果の概要		・学力向上の一環として「わかる授業」を目標にした校内研究を推進して、「学びあう活動」「書く活動」「ふりかえり」の取組を徹底したことにより、各教科ともに基礎基本の定着につなげることができた。しかしながら、学習状況調査等の結果から、記述式や読み取り等の応用問題での到達度が低い傾向にあり不十分なポイントがみられた。そこで、よりわかる授業を構築するための手立てや工夫が今後の課題である。 ・校時の見直しや部活動休養日の固定化する等の取組を介して、働き方改革についての意識が高まった。それに伴い、個々の教職員がタイムマネジメントを意識した業務改革を行うことができた。 ・週に1度の教育相談部会と、毎月末の生徒指導部会を実施することで、教職員間で生徒の情報共有を行い、個に応じた支援やサポートを行った。不登校対策においては、教職員だけではなく、SCやSSW等との連携を行ったにもかかわらず、増加傾向にある。これからは、生徒自身との関りだけではなく、保護者や家庭との連携をより密に行って改善していかなければならないと感じた。																						
2 学校教育目標		郷土を愛し、未来を切り拓く 健やかな体と豊かな人間性・創造性を持つ生徒の育成																						
3 本年度の重点目標		① 生徒が安心感をもって一日を過ごすことができる学校 ・お互いの個性を認め合い、安心して授業や学校生活を送ることができるようにする。/・生徒の良さを引き出し、自己存在感、自己肯定感、自己有用感を高めるために教師が仕組んでいく。/・教職員がやりがいを持って教育活動を行うために、同僚性の高い職場環境を整える。 ② 対話を通し、人との関わりがある学校生活 ・生徒同士の関わり、生徒と教職員との関わりを通して、共感的人間関係を育む教育活動を実践する ③ 学校と家庭、地域との連携 ・学校と家庭、地域の役割を確認し、連携して生徒の成長を支える																						
4 重点取組内容・成果指標																								
(1)共通評価項目																								
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th></tr><tr><td rowspan="2">●学力の向上</td><td>○(学校独自重点取組) ・「わかる授業」を目指した指導法の工夫の実践 ・ICTを活用した知識・技能の力をつけるために、利活用の伝達講習を行う。</td><td>○(学校独自成果指標) ・「わかる授業」を目指し、教師同士の学習会やメンタリングを行う。 ・調査やテストから生徒の苦手を知る。 。グーグルフォームを使って知識・技能の力を見とっている教師を75%以上にする</td><td>・教師のアンケート結果から、教師のニーズに応じた学習会やメンタリングの場を年間3回ずつ程度設定し、指導法改善につなげる。 ・全国・県の学状の結果か生徒の困り感や苦手を分析し、指導につなげる ・前時の復習としてグーグルフォームを使った作問を行い、指導と評価の一体化を図る。</td></tr><tr><td rowspan="3">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合80%以上。</td><td>・年間35時間の道徳科の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。 ・ワークシートや振り返りの場面の設定を工夫し、生徒の変容を細やかに観察する。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>○いじめ防止やいじめの早期発見・早期対応について、「迅速かつ組織的対応ができています」と回答した教師の割合が85%以上</td><td>・毎月末の定期的なアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 ・教育相談部会や生徒指導連絡協議会などで、いじめ防止や早期発見についての手立てや対応を組織的に考え、実践する。</td></tr><tr><td>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</td><td>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上</td><td>・生徒が活躍する場を設定し、生徒の頑張りや良さを認める。 ・1年生では職業調べ、2年生では職場体験と高校調べ、3年生では高校説明会などを通して、将来の進路について考える機会を設ける。</td></tr></table>				重点取組			具体的取組	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・「わかる授業」を目指した指導法の工夫の実践 ・ICTを活用した知識・技能の力をつけるために、利活用の伝達講習を行う。	○(学校独自成果指標) ・「わかる授業」を目指し、教師同士の学習会やメンタリングを行う。 ・調査やテストから生徒の苦手を知る。 。グーグルフォームを使って知識・技能の力を見とっている教師を75%以上にする	・教師のアンケート結果から、教師のニーズに応じた学習会やメンタリングの場を年間3回ずつ程度設定し、指導法改善につなげる。 ・全国・県の学状の結果か生徒の困り感や苦手を分析し、指導につなげる ・前時の復習としてグーグルフォームを使った作問を行い、指導と評価の一体化を図る。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合80%以上。	・年間35時間の道徳科の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。 ・ワークシートや振り返りの場面の設定を工夫し、生徒の変容を細やかに観察する。	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止やいじめの早期発見・早期対応について、「迅速かつ組織的対応ができています」と回答した教師の割合が85%以上	・毎月末の定期的なアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 ・教育相談部会や生徒指導連絡協議会などで、いじめ防止や早期発見についての手立てや対応を組織的に考え、実践する。	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒が活躍する場を設定し、生徒の頑張りや良さを認める。 ・1年生では職業調べ、2年生では職場体験と高校調べ、3年生では高校説明会などを通して、将来の進路について考える機会を設ける。
重点取組			具体的取組																					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)																						
●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・「わかる授業」を目指した指導法の工夫の実践 ・ICTを活用した知識・技能の力をつけるために、利活用の伝達講習を行う。	○(学校独自成果指標) ・「わかる授業」を目指し、教師同士の学習会やメンタリングを行う。 ・調査やテストから生徒の苦手を知る。 。グーグルフォームを使って知識・技能の力を見とっている教師を75%以上にする	・教師のアンケート結果から、教師のニーズに応じた学習会やメンタリングの場を年間3回ずつ程度設定し、指導法改善につなげる。 ・全国・県の学状の結果か生徒の困り感や苦手を分析し、指導につなげる ・前時の復習としてグーグルフォームを使った作問を行い、指導と評価の一体化を図る。																					
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合80%以上。	・年間35時間の道徳科の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。 ・ワークシートや振り返りの場面の設定を工夫し、生徒の変容を細やかに観察する。																				
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実		○いじめ防止やいじめの早期発見・早期対応について、「迅速かつ組織的対応ができています」と回答した教師の割合が85%以上	・毎月末の定期的なアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 ・教育相談部会や生徒指導連絡協議会などで、いじめ防止や早期発見についての手立てや対応を組織的に考え、実践する。																					
●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒が活躍する場を設定し、生徒の頑張りや良さを認める。 ・1年生では職業調べ、2年生では職場体験と高校調べ、3年生では高校説明会などを通して、将来の進路について考える機会を設ける。																					

		○生徒が安心感をもって登校できる学校づくり	○「学校は安心して生活(学習)できる場である」とする生徒が80%以上	・生徒の困り感や悩みに寄り添って傾聴する資質を高めるための研修を実施して、実践する。
●健康・体づくり		次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」 ○(学校独自重点取組・任意)	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ○朝食をとって登校する生徒90%以上	・「生活状況調査」や「食に関する意識調査」を実施する。 ・栄養教諭と連携し、発達段階に合った食育に関する授業を年1回程度実施する。
			○(学校独自成果指標・任意)	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限45時間/月を遵守する。	・毎週水曜日の定時退勤日の推進。 ・会議の進め方や回数を見直す。 ・校務分掌等の校務を精査するとともに、複数の教職員で担当して業務を分散して遂行する。 ・授業時数を担保した上で、5時間授業の日を毎月1～2回設ける。
		○生徒と教職員に余裕のある生活リズムの確立	○「働き方改革」の推進のために、平日の退勤時間を部活動終了後1時間以内とする。	・計画的な業務の遂行を行うだけでなく、優先順位を決めたり、互いに資料を共有したりして業務内容の軽減化を図る。 ・部活動顧問同士で業務内容を分担して取り組む。
●特別支援教育の充実		○すべての教職員が連携して支援できる体制づくり	○特別支援学級に在籍する生徒の80%が、「学校生活に満足している」とする。	・定期的に特別支援教育支援会議を設け、すべての教職員が共有の視点をもって指導できる体制を整える。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組				具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○不登校対策	○生徒が安心して通える学校環境づくり	○年間欠席日数30日以上の子どもの割合前年比10%減を目指す。	・毎月末の「有田っ子アンケート」の実施 ・年2回の教育相談週間実施。 ・週1回の定期教育相談部会を設定し、生徒の状況や対応について共通理解を図る。 ・SCやSSW、不登校支援員との連携を図り、情報交換を行い、対応を協議する。	
○地域に開かれた学校づくり	○教職員、地域、保護者が学校の教育目標や方針を共有し、教育活動を充実させる。	○学校の教育活動への地域からの参画が、学校の活性化につながったと思う割合が80%を上回るようにする。	・年3回の学校運営協議会を設定し、地域からの要望や意見を学校教育に反映させる。	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育				
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・			